

ネットワーク基幹研究プロジェクト地域研究推進事業
「現代中東地域研究」

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から十分な成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

（総合所見）

「資源」をキーワードとし、この共通概念をもとに各拠点が多様な観点からそれぞれ別個に研究を展開しているが、いずれの拠点も順調に研究が進んでいる。「多元的価値の創生」は、紛争解決という観点からも、現在世界の各地でもっとも必要とされている目標であり、そこにおいて何らかの具体的な提言につながるような研究成果が出ることが強く期待される。

研究成果はイスラーム理解やアラビア語の教育につながり、非イスラーム諸国の一般社会においてはびこっている、いわゆる「イスラーム・フォービア」を減じることにも役立っていると考えられる。音楽を通じて中東と日本を繋ぐ道を模索するというのも新しい試みである。「移動」「交流」という角度から中東のみならず、中央アジア、新疆、トルコ、イスラエル、アフリカなどとの関係にも研究の関心を拡大しており、その成果が期待される。

（特記事項）

特に、優れている点

- ・「社会連携・社会貢献」に関わり、カルチャーセンター等での一般向けの講演会や、中高校生を対象とした講義を行い、様々な社会貢献をしている様子が伺える。拠点によっては日本の伝統文化や音楽からのアプローチを模索して社会一般からの関心を集めようとしている点は斬新である。